「つながる」ことは「あずましく」なること

みんなのまち黒石へ

陣屋は黒石のまちをつくる上で重要な役割を果たした場所。これから黒石のまち全体をつなぐために、この陣屋跡をベースとした拠点をつくります。

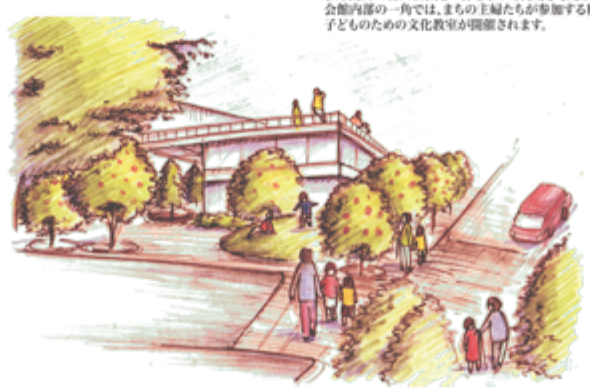
現在、他市への通過交通の一部を担う五所川原ー黒石線が陣屋跡を貫いている。
この周辺に位置する市役所や市民文化会館、クリーニング屋にプログラムを挿入し、小見世コミュニティを生み出す。さらに、緑のネットワークによって小見世コミュニティや既存の空間をつなげることで、この拠点から中心部全体へとコミュニティが広がっていくのではないかと考えます。

拠点ができ、プログラムが展開されることで、五所川原ー黒石線から人り交じりの様子を伺うことができるようになります。これは、郊外、市外から車でこの場所へ流入する人たちが車から降りてこの場所を歩くきっかけとなるのではないかと考えます。このようにして、かつて陣屋だった場所を中心に、黒石の人々が自分の居場所と思えるような空間をつくります。

また、対象エリア縁辺部（主に商業の赤役所周辺、北西の黒石駅周辺）に駐車場の拠点を整備します。
まちの中心部に歩きやすくなった黒石の人通は、小見世コミュニティや拠点を結ぐ歩行者ネットワークをまち全体に形成していきます。

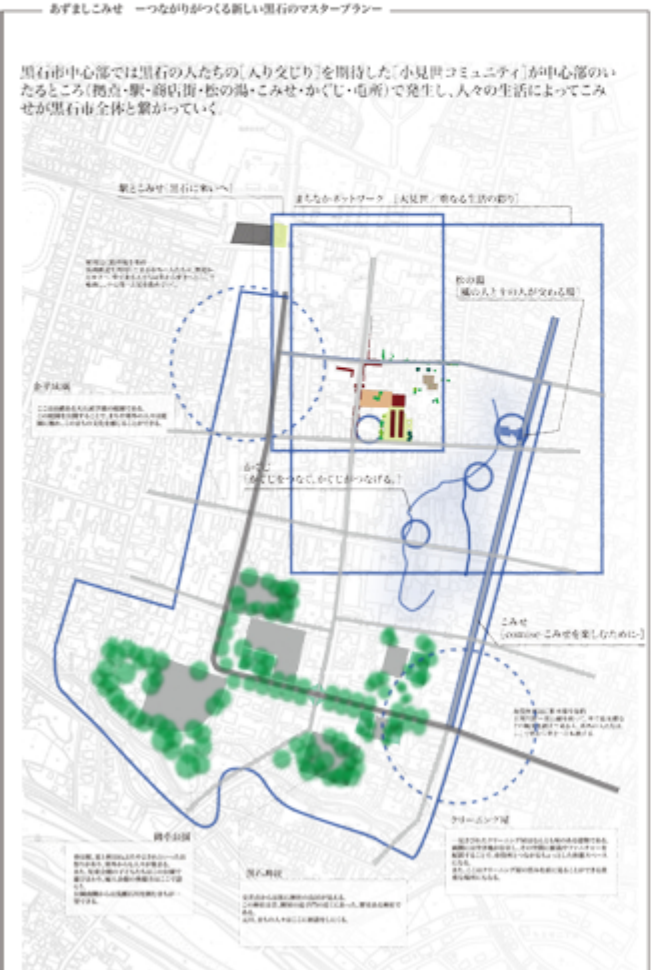
市民文化会館

市民文化会館前の空間にイスやテーブルを配置し、現在ある中庭への動線をつくります。
公園へ遊びにきた人や児童会館に子どもを迎えにきた人の、ちょっとした寄り所。
また、祭りの際に公園と一体となった利用も考えられます。
会館内部の一角では、まちの主婦たちが参加する料理教室や子どものための文化教室が開催されます。



市役所

バスの停留所を市役所の敷地内部に設置します。
さらに、市役所内の樹木を活かして、バスを待っている人たちの待ち合い場所を提供し、市役所の裏側へ抜けた空間にします。

あずましこみせ　ーつながりがつくる新しい黒石のマスタープランー

黒石市中心部では黒石の人たちの「人り交じり」を期待した「小見世コミュニティ」が中心部のいたるところ（拠点・駅・商店街・松の湯・こみせ・かぐじ・亀所）で発生し、人々の生活によってこみせが黒石市全体と繋がっていく。